

## 妙義山 山行報告

(山城) 妙義山

(コース) 11月21日(土) 道の駅みょうぎ～妙義山神社駐車場～白雲山登山口～大の字・奥ノ院・見晴・天狗岩～白雲山～相馬岳～茨尾根～ホッキリ～ホッキリ入り口～東屋～道の駅みょうぎ

11月22日(日) 一宮神社(貫前神社)～富岡製糸場～帰葉

(日時) 11月21日(土曜日)～11月22日(日曜日)

(天候) 晴れ～曇り

(参加者) CL:内堀・SL:岸野・狩野・時田・小宮山(記録)

(山行タイム) 11月21日 7:30 道の駅みょうぎ～8:30 大の字～13:40 相馬岳～15:30 東屋～17:00 道の駅みょうぎ

(山行報告)

11月20日(金) CL車が順次メンバーを拾いながら集合し、22時に松ヶ丘インターより高速道路へ入る。混雑はなく順調に進み、2:00に道の駅みょうぎに到着、テント設営し軽く宴会、就寝する。

11月21日(土) 6:00 職員らしきおじさんの声で目が覚める。早い出勤だ。道の駅みょうぎは駐車場も広く2か所に分かれており、登山・観光ともに利用者も多いようだ。駐車場整理のおじさんもいて賑わっている。楚々とテントをたたみ朝食を済ませる。登山客の駐車場は道の駅建物と道路を隔てた場所とのことで移動する。登山道に近いといえば近い、トイレから遠いといえば遠い第2駐車場に移動し、いざ入山の準備をする。登山者は数グループいて、ハーネスやヘルメット、ギアを装着している。やはり妙義は険しい山のように皆さんそれなりの装備で入る。私たちもジャラジャラと(私はカッコだけの感も…) 装備し、7:30 いざ出発。



妙義神社を抜け晩秋の山道に入る。枯葉の積もる山道、乾燥した空気が気持ちよい。関東の紅葉も進み、ちらほらと赤い木々がある中を「大の字」へ進む。「大の字」直下になる

と、ぼちぼち鎖がかかった岩場が出現するが、手がかり足掛かりはあり順当に進む。「大の字」に到着し小休憩をとる。街並みが足元に見えて、やはり妙義は切り立った山なんだと実感する。

「大の字」で、私たちのグループと同じペースで歩く女性と話す機会があった。一人できているそうだ。推定年齢 30 前半、色白細身の美女。何と千葉県民だそうだ。一人での山行に不安もあるようで同行を希望され一緒に行く事になった。そして、同じように私たちとピッタリ同じペースで来る男性も一人。推定年齢 50 代、「おじさん」。彼も私たちとの同行を希望され、道連れが二人増えて再出発となった。

縦の鎖場、トラバース、鎖場が連続する。人一人がやっと通れる岩と岩の間をギュウギュウと抜ける。難産の生みの苦しみ…男性にこそ通ってほしい箇所だが男性は途中で詰まってしまうようで巻いていた。



稜線に近づくにつれて高度感のある鎖場が多くなる。「ロープを出そうか迷った」縦の鎖場を慎重に抜けた。その次は岩の角を右手方向に乗り越えながら、切り立った岩場を登っ

ていくルートだ。鎖やホールドはあるが岩の下はスバラシイ高度感あふれる景色。CL がリードして鎖場の終了点からロープが出された。セカンド以降はロープマンを使用して登る事となった。



ロープマンに慣れていないメンバーが自分も含めて数人おり、セッティングや途中の通過の仕方（クイックドロエを通してある箇所）をレクチャーしてもらったりで、全員通過するのに 1 時間ほどかかってしまった。後から来るパーティーに先に行ってもらいつつ、待つ時間が長く寒かった。自分の番となり、岩にとりついている時に周りを見渡すと、下は遮るものがない絶景であった。ロープに繋がれている安心感から比較的落ち着いて登ることができ、周りを確認する余裕も出た。

その次は下降、岩は平らでやや寝ている感じ。何度でしょう??練習もかねて懸垂下降で降りる事になる。ATC を用いて順次下降する。懸垂下降が未経験のメンバーは、ロープを身体に固定して釣り下げてもらいながら下降した。終了点での確保で、ロープの結び目を通過させる為に 2 人で行ったりするのが勉強になった。

タルワキ沢で「おじさん」と別れて 13:20 開けているところでお昼タイムとなる。ん?ここが天狗岳ですか?お湯を沸かして温かいものを飲むとホッとす。今日の山のお茶菓子はゆずを干し柿で巻いた「ゆず巻柿」。みんなで食べると更においしい。日も当たり温かい。元気をチャージして出発する。



13:40 相馬岳へ到着し記念撮影。難しい箇所はなく、どんどん進む。ホッキリまで行ったところでホッキリ入り口～東屋に15:30ごろ到着。中間道に行くか車道に出るか検討し、時間的に余裕がない為明るうちに車道に出る事になる。16時に車道へ到着し、ゆるゆると歩く。道の駅みょうぎへ17時に到着した。

すぐ近くの温泉に入り汗を流す。下りが意外に長く足が疲れていたが、お湯に入って復活した。その後買い物、本日の大宴会へと突入する。スープ、餃子、ニラ玉、サラダ、新鮮なリンゴ、コロッケ等お惣菜、お酒大量、その他もろもろでおなか一杯。「いや～結構すごかったねえ～」と盛り上がり、お姉さんとおじさんの話にも花を咲かせた。

翌日イチオウ6時起床し、本日の行動予定を相談する。予定では荒船山だが、が、だれも「登ろう」とは言わない。が、だれも「やめよう」とも言わない。黙々と支度をするが山登りの支度ではない様子…。かなり疲労もあり本日は富岡観光となる。妙な一体感により話がまとまる。天気も悪いしね。

まずは一之宮貫前神社へ。「山登りができますように、健康でいられますように、仕事が順調でありますように、その他略…」と神様に選択も含めてお願いし、富岡製糸場へ向かう。結構な人であふれている。開園直後でも人が多かったが、帰る頃は更に沢山に。何事も早出がいいようだ。

そこココで買い食いし、玉こんにやくやホルモン揚げに舌鼓。ホルモン揚げとはホルモン（肉）ではなく、ちくわをフライにしたものでウスターソースがお約束だ。ちくわだと言われるまで気づかず、自分の味覚に不安になる。最後にソースカツどん富岡風（甘辛い和風たれが特徴）でしめて千葉へ帰る。

標高はあまりないながらも、険しいと聞いていた妙義山。心身ともに登りごたえがあった。ギアの使用が素早くできるように勉強と練習が必要だった。また、ウエアの調節もマメにしないとイケないな、といろいろ考えることも多かった。今度は裏妙義に挑戦したく研鑽に努めたいと思った。